

【外来研修】

《プログラム概要》

葛飾医療センター外来の研修は、プライマリケア修得を目標とする。一般内科、一般外科、小児科の初再診外来を計4週間並行研修する。当院の一般外来を受診する患者は紹介状のない場合が多く、患者の訴えから適切な診断と、それに従った治療方針を立てなければならない。さらに症状改善までの継続診療を行う。今後、地域医療研修中においても外来研修が出来る様調整する。

I. プログラム責任者 根本昌実、小川匡市、斎藤義弘

II. 臨床研修到達目標（基本研修科目履修4週）

1. 一般目標（GIO）

症候・病態については適切な臨床推論プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患の継続診療を行うために、特定の症候や疾病に偏ることなく、原則として初診患者の診療及び慢性疾患の継続診療を含む研修を行う。具体的には以下ようになる。

- 1) 患者を全人的に理解し、良好な医師—患者関係を築く。患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施する。
- 2) 患者の訴えを詳細に問診し、系統的に身体所見をとる。
- 3) 問診と身体所見から患者の問題を把握し、problem に従って鑑別診断をあげる。挙げられた Problem に対して解決するための検査計画を考え、考察し診断に結びつける。
- 4) 患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身につけ、危機管理に参加する。
- 5) 診断に従い適切な治療方針を立てる。治療に従って疾患に重要なポイントを抑えた継続診療を行う。

2. 行動目標（SBO）（経験目標）

1) 経験すべき診察法・検査・手技

(1) 基本的な問診、身体診察法

病態の正確な把握ができるよう、詳細な問診の取り方と全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記載することができる。

(2) 基本的な臨床検査

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査を自ら実施し、あるいは検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

(3) 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施することができる。

(4) 基本的治療法

基本的治療法の適応を決定し、適切に実施することができる。

(5) 医療記録

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し管理することができる。

2) 経験すべき症状・病態・疾患

(1) 経験する症状

発熱、浮腫、頭痛、リンパ節腫脹、発疹、めまい、胸痛、動悸、呼吸困難、咳嗽・痰、心雑音、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢、便秘）、腰痛、四肢のしびれ、血尿、脱水、痙攣、腹部腫瘤、黄疸、発達遅延、肥満、やせ、低身長、など。

(2) 経験する疾患・病態

内科疾患：脳血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）、認知症、変性疾

患、脳炎、心不全、高血圧症（本態性、二次性高血圧症）、呼吸不全、呼吸器

感染症（急性上気道炎、気管支炎、肺炎）、食道・胃・十二指腸疾患、腎不全

（急性、慢性、透析）、糖代謝異常（糖尿病、糖尿病合併症、低血糖）、など。

外科疾患：皮下膿瘍、虫垂炎、ヘルニア、痔核、乳腺疾患、甲状腺疾患、イレウス、気胸、急性腹膜炎、など。

小児科疾患：低出生体重児、伝染性・発疹性感染症、熱性痙攣など。

(3) 経験する症例数。

1 日で2～4名を目標として、症例リストを作成し、様々な症例を経験できるようにする。